スポーツクラブ広報の仕事

大阪サッカークラブ株式会社　伊藤　由佳

このような仕事です

私はJリーグに加盟するプロサッカークラブ「セレッソ大阪」の広報部で仕事をしています。

スポーツクラブの広報というと、みなさんはどのようなイメージを持たれるでしょうか。有名な人に会えたり、テレビ局に出入りできたりと、とても華やかな仕事というイメージを持たれるかもしれませんし、確かにそういった役得もたまにはあります。しかし、日々の業務の大半はどちらかというととても地味なものです。例えば毎朝新聞各紙をチェックしてクラブ関連記事をスクラップ、クラブのホームページや携帯サイトなどのウェブサイトの更新、取材依頼の対応、広報誌や取材原稿の校正、またニュースリリース（報道機関へ向けての公式発表）の原稿作成や配信といった、細かい作業を積み重ねる日々なのです。

また、不思議に思われるかもしれませんが、サッカークラブの広報ではありますが、サッカーに精通していることがこの仕事の第一条件ではありません。ニュースリリースを作成するには、やはり社会人として最低限の文書作成能力、取材依頼の対応においては電話やメールでのやり取りのマナーなどが必要になってきます。そして何よりこの仕事にとって一番必要となるのは、人とのコミュニケーション能力でしょう。

大切なコミュニケーション

やはり広報というのは、日頃から社長をはじめスタッフそしてもちろん選手を含めてクラブ内でのコミュニケーションをうまく取っていかなくてはいけません。また、メディア（報道関係）の方や応援してくださっているファンやサポーターの皆さんともコミュニケーションを取ることも必要となってきます。

クラブの顔として監督や選手たちが存在し、その顔により一層の磨きをかけてより良いイメージにして、外へ向けて発信していくことが広報の仕事です。そのためにも日頃から、たくさんの人たちとコミュニケーションを取っていくことが大切になってきます。こちらが何も言わなくともマイクを向けられるとすらすらとコメントを答えられる優等生の選手ももちろんいますが、普段はとても明るくておしゃべりだけど、たくさんの記者さんに囲まれてしまうと何もしゃべれなくなってしまう選手がいたり、頭ではいろんなことを考えているのだけれど、それをうまく言葉に表現できない選手だったり、いろんな選手がいます。どの選手がどんな性格、普段はこんな人柄だということは、やはり日頃からコミュニケーションを取ることで把握できます。そんな選手たちを初めてお会いした記者の皆さんたちに、どういう性格の持ち主なのかといった一面を伝えてあげるだけで、その選手の受け取られる印象はずいぶん変わります。おしゃべりが過ぎると時にはミスにつながりますが、基本的に広報は人と話をするのが好きだという方に向いている職業だと思います。

しかしながら、いつもいつもが楽しいことばかりではありません。以前、私が上司に言われて心に深く残っているのが「広報は“嫌われ者”になることも必要」という言葉です。サッカー選手は試合に出ることが仕事、そして試合である以上勝敗はつきものです。試合の後には、出場した選手たちは必ずJリーグのルールで決まっているミックスゾーンを通らなければいけません。ミックスゾーンとは、選手たちが新聞やテレビなどの取材を受けるエリアで、ロッカールームからバスへ乗り込むまでの間に設置されており、そこにはたくさんの記者の方々が待ち受けています。勝った試合の後の選手たちは、正直、放っておいても大丈夫です。勝手に通って、機嫌よく記者の方々の取材を受けてバスへ乗り込みます。しかし、反対に負けた試合の場合、選手たちにとってそこはとても辛い場所になります。例えば自分のミスで失点してしまった選手、期待を一身に受けて出場したのに何の結果も出せなかった選手、ただ負けたから誰にも会いたくない、など理由は様々ですが、その気持ちはみなさんにも理解していただけることでしょう。しかし、プロの選手である以上どんな状況であっても取材を受ける義務があります。注目を浴びている選手であればあるほど、取材のリクエストは多く、たくさんのメディアがコメントを求めてきます。個人としては、そっとしておいてあげたいときもあります。けれど心を鬼にして、そういったメディアの前に選手を引きずり出さなければならないときもあるのです。嫌がり、その場から逃げ出す選手もいます。でも逃げ出してしまったら、その選手は「負けて逃げ出した選手」になってしまうのです。プロらしくあるために、どんな負け方をしたときにも取材は受けて欲しいと選手には伝えます。「ごめんなさい、今日は何も話せる気分じゃないです」の一言を発するだけでも、その選手に対する受け手の印象は大きく変わります。ミックスゾーンを通った、通らないで時には選手とケンカのようになってしまうこともあります。しかし、次に会ったときにはお互い普通の顔をして話しをすることができるのは、やはり普段からのコミュニケーションがあるからだと思っています。

コントロールも重要

そしてまた、今度は逆にメディアからの“嫌われ者”になることもあります。前述でおしゃべりが過ぎるとミスにつながると書きましたが、それは広報は発表されたこと、されていることしか口にしてはいけないからなのです。知っていても知らぬ顔を通さなければならないときもあります。例えばある選手が他クラブへの移籍話が水面下で進んでいるとしても、契約書を交わすまでは決定とは言えません。従って、何を問われても決定していない以上、話すことは許されません。当の選手ももちろんしゃべってはいけません。しかしメディアの方たちも聞き出すことが仕事ですから、とにかくその選手をマークして離れません。そんなときは、今度はメディアから選手を守ることが仕事になるのです。何も話せない選手に代わって、「今はまだ何も話せる状況ではありません」と答えます。そんな状況でイライラがつのった選手から八つ当たりに近い言葉を受けることもあります。選手から何の答えも引き出せないメディアから厳しい言葉を受けることもあります。それもこれも仕事だと思って割り切って乗り切るしかありません。

選手のことも、普段からお付き合いのあるメディアの方のことも理解し、コミュニケーションを取れているからこそ、そう思ってやり過ごすことが出来るのです。ニュースリリースで「発表」という山さえ乗り越えてしまえば、また普段通りに戻れるのです。その発表の後、すっきりとして笑顔を見せながら「今までありがとうございました」と握手を求めてくる選手を見ると、いろんなことを思い出しながらも、この仕事をやってきてよかったなと思えるのです。試合の勝敗に一喜一憂し、選手の喜怒哀楽を見て、精神的なタフさがとても必要な仕事ではありますが、勝った時に満面の笑顔の選手たちを見るとすべてが吹き飛ぶ思いです。

基本的に求められることはどの職業も同じ

ご紹介したこれらのことは広報の仕事としてほんの一部にしか過ぎませんが、どんなものなのか少しは理解していただけましたでしょうか。特殊な職業と思われるかもしれませんが、この職業に必要なのは、まずは社会人としての一般常識を持ち、コミュニケーション能力を備えていることといった、一般企業で働くことに必要なものと全く変わりません。もちろんサッカークラブの広報としてサッカー専門知識を持つことは必要ではありますが、そういった必要な知識やスキルは本人の努力次第で今後いくらでも備えていくことが可能です。どんな職業でも基本的に必要なことは変わらないと思います。

まずは必要なこと、社会人としての一般常識を身につけること。そして夢と目標をもってチャレンジしてください！

Navi委員会からの質問

Q1. 高校時代は文系、理系、その他どの課程に属していましたか？

A1. 文系でした。

Q2. その職業に就くことを決意したのはいつですか？

A2. 会社内でいろいろな部署（営業、商品開発ほか）を経験した上での人事異動で配属となりました。